

臨時教育委員会（1月22日）議事録（要点筆記）

1. 開会及び閉会に関する事項

○開催日時 令和8年1月22日（木）
開会 15時15分 閉会 16時10分

○開催場所 直方市役所6階 第3委員会室

2. 出席者及び欠席委員の氏名

○出席者 教育長 山本 栄司
教育委員 篠田 尊徳 中野 昭子
内藤 誠治 矢野 愛

○欠席者 なし

3. 教育長、教育委員および傍聴人を除く外、出席した者の氏名

教育部長	宇山 裕之	こども育成課長	岩尾 栄子
学校教育課長	林 教司	学校教育課管理主事	井手上 大輔
教育総務課長	石橋 剛	規模適正化推進係長	青山 斉史
教育総務係長	天野 浩輔	規模適正化推進係	田代 光太郎

4. 教育長の報告

別添資料参照（教育委員会行事報告、教育委員会行事予定）

5. 議題及び議事の概要

○議案（議案書は別紙）

議案番号	内容	結果
主管課	趣旨	
議案第 21 号	直方市学校規模適正化基本計画に基づく複式学級解消について	可決
教育総務課	<p>提案根拠…直方市教育委員会事務委任規則第 3 条の規定により提案</p> <p>議案概要…中泉小学校の児童数減少に伴う複式学級の速やかな解消のために、令和 9 年 4 月 1 日から中泉小学校を休止し、中泉小学校の通学区域に住所を有する児童は、令和 9 年 4 月 1 日から下境小学校へ就学するための取組を推進する。</p> <p>※詳細は資料を参照</p>	

委員意見質問

- 教育長 資料③の通学距離について、中泉小学校に今通ってる児童が下境小学校に行くようになったとした場合に、直方市内の他小学校の児童の通学距離と比べて極端に遠くなるわけではないという理解でいいか。
- 青山係長 そう考えているが、資料は 2024 年 3 月末の住民票のデータで作成しているので、現在の状況で再度検討は必要となる。
- 内藤委員 資料②の中の中泉小学校の状況のところ、3、4 年生のところ、ぐっと減っているが、要因として弾力化で他の学校に行った児童が多いといったことがあるのか。単に居住の動向でそうなっているのか。
- 石橋課長 弾力化によるものではなく、人口の減少が要因と考えている。
- 内藤委員 他の学校に行っているわけではなく、本来中泉小学校に入る予定の児童がちゃんと通っているということでもいいか。ここだけ見るとかなり減っているが。
- 林課長 逆に他の学校の範囲の児童が中泉小学校に通っている実態もある。保護者が中泉小学校の出身ということで、子どもも通わせたいという方もいて、実際の住所でいくと、現状より減るかもしれない。
- 教育長 複式学級になってる学年のところ、何らかの理由で児童が多く流出したといった特殊な状況ではないということだが、中泉小学校の今後の予測はどのような状況なのか。
- 石橋課長 今後、基本的には、今後の入学者数は住民票上では一桁が続く傾向にある。これは中泉小学校に限らず、コロナ禍の影響で出生数が落ちているので、それが回復しない限りは、基本的にはこの傾向であろうと考えている。
- 内藤委員 とりあえず中泉小学校はこういう方針で行って、他の学校は計画どおり進

- めていくときに、説明では3、4年後に実際の対応が始まるということだったが、その間に他の学校では複式学級は発生しないということで、中泉小学校だけ、とにかく緊急性をもってやりましょうということでもいいか。
- 石橋課長 他の学校では、複式学級の発生までは今のところ予測していない。今回は基本計画の中で複式学級の速やかな解消というのがあるので、それに沿った取り組みである。その他の学校については、そういう状況ではないので、実行計画を来年度作った上で、その中で具体的な方針を示した上で取り組むというふうに考えている。
- 中野委員 中泉小学校の休校に関して反対は全くないが、通学路の安全確保について、中泉小学校から下境小学校に行く通学路となると、結構寂しいところを歩いていかないといけない、もしくは200号線を横断しないといけないといったところがある。その辺の児童の通学における安全性をいかに担保できるかというのが大事だと思うが。
- 石橋課長 まず中泉小学校で、現状どのような通学方法があるかを先生方に調査することとしている。現在どこの学校も車で送迎される例もかなりある。送迎と徒歩通学がどれくらいかということ进行调查した後、下境小学校に通学路が変わった場合の通学路の安全点検を行った上で、危険箇所の確認、安全確保の方法を他の学校でやってることと同じようにやっていく予定である。
- 中野委員 安全確認は当然必要だが、資料③の円で表した通学距離はあくまでも直線的なものなので、200号線を渡ってくる児童が歩道橋を使うとなると、かなり長い距離になるのではないか。
- 林課長 基本的には直方一中の通学路とほとんど変わらなくなるので、中泉方面は基本的に直方大橋を渡って、えくぼ屋のところから左の道に入って、裏門から下境小学校に上がるようになる。
- 中野委員 歩道橋ではなく横断歩道を渡ってくるということか。
- 林課長 中泉小学校の下のトンネルをくぐって、踏切を渡って直方大橋のバイパスに上がっていくので、距離的にはそうでもないのではないか。
- 篠田委員 何年間か学校訪問を行う中で、複式学級にあたるものとして特別支援学級があるかと思うが、見ていて先生の負担というのがものすごく大きいと感じている。同じ直方市の中で、複式学級の学校と通常の学校があることは、やはり児童・生徒にとって申し訳ないことだと思うので、複式学級の解消を目指すことは、委員会として早急にすべきことということに関しては、むしろ進めていくことがふさわしいと思うが、受け入れる側の学校の保護者の反応はどうか。もう一点は休校と廃校というのは全く別のもので、休校はまた戻す可能性があるという措置である。そうすると、ずっと今の状態を維持管理していかないとはいけなくなるが、費用的な面も考えてどうなのか。
- 石橋課長 休校の状態は速やかな措置のための一時的なものというふうに考えてお

り、来年度、市全体の学校がどうあるべきかという実行計画を作る中で、暫定的に速やかに行った中泉小学校の統廃合とかといった本格的なあり方というのは、そこに盛り込むべきものというふうに考えている。来年度中にはそれを固めて、下境小学校と中泉小学校の統合なのか、また他の何かの要素も絡めるのかというのをしっかりまとめていって、新しい学校名や校歌を作るであるとか、ちゃんとした形を整えるものと考えている。その段階では、もしもいずれかの学校が廃校ということになった場合、今度は跡地活用が出てくる。これは教育委員会ではなく市長の責任のもとに進める部分になるというふうに考えている。こちらの方は、徐々にそういう市全体の動きの中で考えていかなければいけないということで、市長部局の方でも、徐々に準備を整えているといった状況である。

林課長 受け入れ側の反応については、直方一中入学時で一緒になるのがちょっと早まったという形になると思うが、そういったところで今後、保護者説明会もきちっとしていく予定にしているので、そういったところでご理解をいただいて、やはりまずは子どもたちのためであるというところをしっかりと分かっていただいて、学校と委員会と協力しながら子どもたちを育てていきたいと思っているし、地域の方、保護者の方々にもご理解いただけるようにしていきたいと思っている。

中野委員 中泉小学校は、地域の方と行っている太鼓の取り組みが素晴らしいが、それは下境小学校に行っても続けられるのか。もう一つは、資料②の基本的な考え方の中に、地域コミュニティの核としての性格の配慮というのがあるが、中泉小学校の下の方は大雨が降ったら必ず冠水する。その場合、住民の方たちは中泉小学校に避難されるが、それは休校になっても担保できるのか。

石橋課長 避難所については、市の防災担当課が避難所を決定しているが、休校になった場合にも、施設がすぐなくなるわけではないので、活用については支障ないというふうに考えている。最終的には担当課での決定となるが、それも含めて、今日の教育委員会での議論の結果を踏まえて、早ければ明日、部長以上が出席する市の会議の中で報告を行う予定である。その後はそれぞれの部署があるので、部署の中で必要な対応をお願いするといった趣旨も含めて報告を行う。

中野委員 今学校の鍵は校長が持たれていると思うが、休校になった場合はどうなるのか。

林課長 今は校長以外の職員も鍵を持っているが、全部回収して教育総務課が管理するようになる。

石橋課長 避難所の開設の際は、委員会で管理している鍵を避難所の責任者に渡して、それで解錠することになる。

林課長 中泉太鼓に関しては、今年度できるかどうか確認はしていないが、人数的にはぎりぎりかもしれないが、やれるのではないかと考えている。ただ、

年々児童数の減少と指導者の方の高齢化の問題があり、継続できるかどうかというのが実際である。その他学校行事についても、地域と中泉小学校はかなり近くずっと今までやってきている。今年の餅つきとかいろいろ行事もあるが、そういったところは学校がないとできないわけではないので、そこは地域の方々とお話しながらというところになってくる。

教育長

中野委員が心配されているのは、地域性の問題だろうと思う。中泉の地域で中泉小学校としてやっていたのが、下境小学校に行ったときにそういうものが継続してできるのか、なくなるのか。それは取り扱い次第で、学校なりでそうなったらそうなったでどうやっていくか検討していくことである。地域性を重視して、あくまで中泉の居住者の児童でということであれば、そういう縛りをかけて集めてその中でやっていくということも可能であるし、新たなその地域的な広がりを見せて、広く求めるということでも対応することも可能だろう。そこはこの後またいろいろ協議して決めていくことになる。ただ、先ほどいったように、まだこういう方針ということであって、休校を決定するわけではなく、ここで方針を決めてそれを地域に降ろしていく中で、その話がまた元に戻るとかというようなことがないわけではない。そういう作業にこれから入っていいかどうかということである。

議案第 22 号	令和 7 年度 1 月補正予算について	可決
こども育成課	提案根拠…直方市教育委員会事務委任規則第 2 条第 1 項第 4 号の規定により提案 議案概要…補正予算の説明 ※詳細は資料を参照	

委員意見質問、特になし

○協議事項
なし

○報告事項
なし

○その他

●会議録署名委員の指名について

中野委員を指名

6. 閉会

(署名)

直方市教育委員会教育長

山本栄司

(署名)

直方市教育委員会教育委員

中野昭子
